

# 複式第1・2学年 算数科学習指導案

第1学年 2人  
第2学年 5人  
指導者

1 単元 「ひきざん」 (学校図書1年下) 10時間  
「かけ算(3)」九九のきまりを見つけていかそう (学校図書2年下) 7時間

## 2 単元について

### (1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

これまでに子供たちは、「のこりはいくつ、ちがいはいくつ」の学習で求残、求差の場面を式に表したり、10以下の減法を計算したりしている。また、「10よりおおきいかずをかぞえよう」の学習では繰り下がりのない(2位数) - (1位数)を計算する中で、「10のまとまり」と「端数」と捉え、「端数」に着目して計算する経験をしている。

本単元では、「数を分けて計算する」「順序よく考える」「きまりを見付ける」という数学的な見方・考え方を働かせながら、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解する。また、繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現したり考えたりする力を養うことをねらいとしている。さらに、10の補数関係に着目し、数を分解して「10といいくつ」という捉え方をさせるために、「減加法」と「減々法」を理解し、10に着目して数を分解する見方のよさを、単元を通して感じさせる。このような学習から、日常生活の中に学んだことを生かそうとする態度を育てていく。

ここでの学習は、第1学年「大きいかずをかぞえよう」の2位数の構成を捉え、位の考え方を用いて数を合成・分解する学習へと発展していく。

(第2学年)

これまでに子供たちは、「かけ算(1)」「かけ算(2)」の2つの単元を通して、1~9の段の九九の構成を学習してきている。これらの単元では、九九を構成していく過程で、乗数が1増えていくごとに、答えが被乗数の分だけ増えていくきまりを見付けたり、乗法の交換法則や分配法則につながる見方を学習したりしてきた。

本単元では、「きまりを見付ける」「数を分けて計算する」「同じ数のまとまりの幾つ分で考える」という数学的な見方・考え方を働かせながら、乗法九九を構成したり、被乗数、乗数、積の関係や分配法則を理解したりする。また、計算の意味や仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりできるようにする。さらに、乗法九九の表を活用し、これまでに見付けた乗法のきまりを確認したり、12程度までの2位数と1位数の計算について、乗法のきまりを基に考えたりできるようにする。その際、具体的な場面に即して読み取った式を図や具体物に置き換え、関連付けられるようにする。このような活動から、乗法のよさに気付かせ、生活や学習に生かそうとする態度を育てていく。

ここでの学習は、第3学年「1けたをかけるかけ算」の学習へと発展していく。

### (2) 指導の基本的な立場

(第1学年)

1年生の「ひきざん」では、繰り下がりのある(2位数) - (1位数)の計算において、減加法、減々法を学習する。しかし、第1時において両方が出てくることも考えられる。その場合は、無理やり減加法に収束させず、順を追って、どちらの方法も理解し、習熟させていく。その上で、減加法と減々法のどちらでもできる場面を設定し、2つの計算方法を比較することで、よさや繰り下がりのある減法の仕組みについて、より確かに理解していく。また、文章題や問題作り、カード作りを通して、計算の仕方を考えたり、規則性を見付けたりする。

(第2学年)

2年生の「かけ算(3)」では、乗法の分配法則や交換法則、乗数が1増えると答えが被乗数分だけ増えるといったきまりが、乗法九九の表を使うことで見えやすくなることを確認し、それらのきまりを整理していく。その上で、乗法のきまりを使い、乗数が9より大きい乗法の求め方について考える。そして、複合図形のように構成されたボールの数の求め方を、分けたり移動させたりしながら分配法則に気付き、複数の乗法を組み合わせることで解決につながることを理解していく。また、倍の意味を乗法と関連付ける学習を行う。

学習に関する興味・関心を高めるために、単元の導入時に「学年別学習課題」を提示する。本校1・2年生の生活科では、12月に「○○っ子フェスティバル」を行う。そこでは、手作りのおもちゃを製作し、3・4年生や保護者を招待することになっている。この「○○っ子フェスティバル」を共通のテーマとし、1年生は毎時間「○○っ子フェスティバル」に関連する学習課題を、2年生は単元を通して解決を図る学習課題を設定する。そうすることで、異学年が協働し、意欲的に問題に取り組むことができたり、算数の学習以外でも異学年聞いたり、教えたりしやすい雰囲気がつくれるのではないかと考える。

(3) 子供の実態 (調査実施日 R 7. 7. 11 1年2人 2年5人)

| 第1学年   | 第2学年   |
|--|--|
| 1 既習事項   |  |
| <p>① ひき算 (繰り下がり無し)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7 - 2</li> <li>8 - 0 誤答無し</li> </ul> <p>② 10より小さい数の補数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6は4と□ 誤答無し</li> <li>10から8を引くと□ 誤答(1人)</li> </ul> <p>③ ひき算の文章問題</p> <p>折り紙が9枚ありました。5枚使いました。何枚残っていますか。</p> <p>式 9 - 5 = 4 答え4枚 誤答無し</p> | <p>① 2とびの数・5とびの数え方</p>  <p>12枚 誤答無し</p> <p>② 2とび・5とびの数系列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0 - 2 - □ - 6 - □ - 10 - □ 誤答(1人)</li> <li>10 - □ - □ - 25 - 30 - 35 - □ 誤答(2人)</li> </ul> <p>③ 複数の同じ数のたし算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3 + 3 + 3 + 3 誤答(1人)</li> <li>5 + 5 + 5 + 5 + 5 誤答無し</li> </ul> |
| 2 導入場面 算数科のガイド学習で「気付いたこと」を考えるのは難しいですか。   |  |
| <input type="radio"/> 簡単 (0人)<br><input type="radio"/> ふつう (1人)<br><input type="radio"/> 難しい (1人)<br>考えるのが難しいから。   | <input type="radio"/> 簡単 (1人)<br>問題が分かりやすいから。<br><input type="radio"/> ふつう (4人)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>ぱっとできるときもあるから。</li> <li>どんどん浮かんでくるから。</li> <li>ちょっと難しいけれど、すぐに答えられるから。</li> <li>言えるときもあるし、難しいときもあるから。</li> </ul> <input type="radio"/> 難しい (0人)   |
| 3 展開場面① 算数科のガイド学習で「方法の予想」を考えるのは難しいですか。   |  |
| <input type="radio"/> 簡単 (1人)<br><input type="radio"/> ふつう (1人)<br><input type="radio"/> 難しい (0人)  | <input type="radio"/> 簡単 (3人)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>前と同じだから。</li> <li>前の方法と一緒にすればいいから。</li> </ul> <input type="radio"/> ふつう (2人)<br>難しいときも簡単なときもあるから。<br><input type="radio"/> 難しい (0人)  |
| 4 展開場面② 算数科のガイド学習で「話合い」の時間は好きですか。  |  |
| <input type="radio"/> 好き (2人)<br><input type="radio"/> ふつう (0人)<br><input type="radio"/> 好きではない (0人)   | <input type="radio"/> 好き (2人)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>言葉で書いてないけれど、話せばいいときがあるから。</li> <li>発表するのが楽しいから。</li> </ul> <input type="radio"/> ふつう (1人)<br><input type="radio"/> 好きではない (2人)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>時間が足りないから。</li> <li>発表するのが嫌いだから。</li> </ul>   |
| 5 展開場面③ 算数科のガイド学習で「共通点」を見付けるのは難しいですか。  |  |
| <input type="radio"/> 簡単 (2人)<br><input type="radio"/> ふつう (0人)<br><input type="radio"/> 難しい (0人)  | <input type="radio"/> 簡単 (2人)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>話合いに書いてあるから。</li> <li>話合いの考えを共通点にすればいいから。</li> </ul> <input type="radio"/> ふつう (1人)<br><input type="radio"/> 難しい (2人)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>どう伝えればいいか分からないから。</li> <li>すぐ思いつかないから。</li> </ul>  |
| 6 算数科の学習は好きですか。  |  |
| <input type="radio"/> 好き (1人) <input type="radio"/> ふつう (1人)<br><input type="radio"/> 好きではない (0人)  | <input type="radio"/> 好き (3人) <input type="radio"/> ふつう (1人)<br><input type="radio"/> 好きではない (1人)  |
| 7 複式の算数科の学習のとき、誰と勉強したいですか。   |  |
| <input type="radio"/> 一人 (1人) <input type="radio"/> 友達 (1人)  | <input type="radio"/> 一人 (0人) <input type="radio"/> 友達 (5人)  |
| 《既習事項について》   |  |
| <p>1より、計算や文章問題は全員できていたが、10-(1位数)の減法について再度確認する。</p> <p>《算数科の学習について》</p> <p>2より、「気付いたこと」の場面で考えるのが難しいと感じる子供がいる。</p> <p>3～5より、展開場面において、ほとんどの子供が前向きに取り組んでいる。教師と共に進めるガイド学習から、少しずつ自分たちで授業が進められるようにしたい。</p>  |  |
| 《複式学級での学習について》   |  |
| <p>6より、算数科の学習がふつう、好きではないと回答している子供が両学年にいる。また、7より、ほとんどの子供が友達と勉強したいと回答していることから、単元指導計画の見直しや、自力解決の際に友達に質問したり教えたりできる雰囲気づくりを行う必要がある。</p>  |  |

#### (4) 指導上の留意点

「つかむ・見通す」の段階では、子供自身が問い合わせるために、「学年別学習課題」を掲示する。また、全員で前時の学習のまとめを中心に振り返りをしてから本時の問題へと進むようとする。前時との問題の違いに気付くことを苦手としている子供がいるので、気付きやすい問題を作成することで、子供の「なぜ」を引き出し、めあてを立てることができるようとする。さらに、数学的な見方・考え方を働きかけ、見通しをもって自力解決ができるよう、何を使ってどのような方法で考えるのかを、カードを活用して具体的に考えられるようとする。

「調べる・練り上げる」の段階では、自分に合った方法で意欲的に学習に取り組めるように、学習に使うツールを選択させたり、自分たちで時間を設定させたりして、自力解決ができるようとする。また、自分の考えがまとめられない子供には、自由に友達に聞きに行けるようにすることで、時間内にまとめられるようとする。さらに、話合いや共通点を探すことが苦手な子供が自信をもって発表できるように、発表話型を意識させたり、共通点を探しやすくするためにボードペンの色を工夫させたりする。話合いの場面では、数学的に表現されたそれぞれの発表を、自分の考えと同じところや違うところを比べながら聞き、共通点を見付けて仲間分けができるようとする。

「まとめ・振り返り」では、学習内容の定着を図るために、精選した練習問題に取り組む時間を確保する。練習問題は、全員が確実に取り組む「チェック問題」と、早く終わった子供が選択して取り組めるよう「発展問題」を複数準備しておく。振り返りは、「できるようになったこと」、「考えが変わったこと」、「次に頑張りたいこと」の3観点で書かせる。1年生は、自分の「振り返りカード」を黒板に貼り、言葉で説明できるようにし、2年生は、ノートに書いて発表できるようとする。また、両学年とも、振り返りをロイロノートに記録し、異学年で学んだことを伝える場面を設定することで、共通の見方・考え方で解決できたことを共有できるようとする。

### 3 単元の目標及び評価規準

#### (1) 目標

- |  |  |
|--|--|
| ○ 10のまとめに着目し、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解することができる。<br>[A(2)ア(ア)]                                | ○ 乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成することができる。<br>[A(3)ア(ア)]  |
| ○ 繰り下がりのある計算が正しくできる。<br>[A(2)ア(ウ)]   | ○ 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解することができる。<br>[A(3)ア(ウ)]   |
| ○ 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、図、式を用いて表現したり考えたりすることができる。<br>[A(2)イ(ア)]                       | ○ 乗法九九の表を観察し、乗法についての性質を見いだしたり、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の計算について、乗法のきまりを基に考えたりすることができる。<br>[A(3)イ(ア)]                             |
| ○ 10のまとめに着目して計算したり、その過程を表現したりすることのよさや楽しさを感じながら、日常生活の中に学んだことを生かそうとしている。<br>[学びに向かう力、人間性等] | ○ 身の回りの事象から乗法で表される場面に進んで関わり、乗法のきまりや、乗法九九の表を活用し、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気付き、生活や学習に活用しようとしている。<br>[学びに向かう力、人間性等] |

#### (2) 評価規準

| 第1学年   | 観点            | 第2学年  |
|--|---------------|---|
| ・ 10のまとめに着目し、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。<br>・ 繰り下がりのある計算が正しくできている。    | 知識・技能         | ・ 乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成している。<br>・ 被乗数、乗数、積の関係や分配法則を理解している。                                 |
| 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、図、式を用いて表現したり、考えたりしている。                      | 思考・判断・表現      | 乗法九九の表を観察して、乗法についての性質を見いだしたり、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の計算について、乗法のきまりを基に考えたりしている。                 |
| 10のまとめに着目して計算したり、その過程を表現したりすることのよさや楽しさを感じながら、日常生活の中に学んだことを生かそうとしている。 | 主体的に学習に取り組む態度 | 身の回りの事象から乗法で表される場面に進んで関わり、乗法九九の表を活用して乗法のきまりを見付けたり、数理的な処理や乗法のよさに気付いたりして、生活や学習に生かそうとしている。 |

#### 4 指導計画

| 学年別学習課題 | 第1学年  | 第2学年  |
|---------|---|---|
|         | 毎時間の「宇宿っ子フェスティバル」に関連する学習課題（繰り下がりのある減法）  | 単元を通して解決を図る「宇宿っ子フェスティバル」に関連する学習課題（乗法九九の活用）  |
| 数学的な表現  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 数を分けて、10を作る。</li> <li>● 図やブロックを使い、順序よく考える。</li> <li>● 引かれる数を揃えて、きまりを見付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 九九の表から、きまりを見付ける。</li> <li>● かけ算九九が使えるように分けたり、きまりを使ったり、全体から引いたりする。</li> </ul> |

| 小単元               | 第1学年 学習活動（全10時間）   | 第2学年 学習活動（全7時間）  | 小単元                     |
|-------------------|--|--|-------------------------|
| 1                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年別学習課題を知る。</li> <li>繰り下がりのある減法の計算の仕方（減加法）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ ばらの3から9を引けないときは、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 10を作つて、「ひくたす」をすればよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 10のまとめに着目し、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。[知]</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年別学習課題を知る。</li> <li>きまりの発見（交換法則・分配法則・乗数と積の増え方）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ かけ算九九の表には、どんなきまりがあるかな。</li> <li>㊳ かけ算九九の表にも、きまりがある。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成している。[知]</p>             | 1                       |
| 2                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのある減法の計算の仕方（減加法）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ 13-9を分かりやすく話すには、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 「まず、次に、最後に」を使い、順番に話せばよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 繰り下がりのある減法の計算の仕方を正しく説明している。[思]</p>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>きまりの発見（かけ算九九の表の説明）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ かけ算九九の表を分かるように説明するには、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ かけ算のきまりを使って説明すればよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 被乗数、乗数、積の関係や分配法則を理解している。[知]</p>                              | 2                       |
| 3                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのある減法の計算の仕方（減々法）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ ばらの1から2を引けないときは、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 10を作つて、「ひくひく」をすればよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 繰り下がりのある計算が正しくできている。[知]</p>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>乗数が9より大きい乗法           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ かける数が9より大きいときは、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 九九が使えるように分けて、きまりを使うとよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 九九表を観察して、乗法についての性質を見いだしたり、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりを基に考えたりしている。[思]</p> | 3                       |
| 4<br>(本時)<br>ひきざん | <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのある減法の計算の仕方（減加法と減々法）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ ばらの4から6を引けないときは、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 10を作つて、「ひくたす」や「ひくひく」をすればよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> 繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、具体物や言葉、式、図を用いて表現したりしている。[思]</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>乗法九九の活用           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ すきまがあるときのボールの数を求めるには、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 九九が使えるように分けて、きまりを使つたり、全体から引いたりすればよい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>評価</b> L字型に並んだボールの数の求め方について、乗法九九を活用して考えることができている。[思]</p>      | 4<br>(本時)<br>かけ算<br>(3) |
| 5                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年別学習課題の解決</li> <li>既習事項の確かめ</li> </ul> <p><b>評価</b> 表現したりすることのよさや楽しさを感じながら、日常生活の中に学んだことを生かそうとしている。[主]</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年別学習課題の解決</li> <li>既習事項の確かめ</li> </ul> <p><b>評価</b> 身の回りの事象から乗法で表される場面に進んで関わり、九九表を活用して乗法のきまりを見付けて、数理的な処理や乗法のよさに気付いたりして、生活や学習に生かそうとしている。[主]</p>   | 5                       |
| 6                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのある減法適用の文章題（求差）           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ ちがいを求めるときは、どのように計算すればよいかな。</li> <li>㊳ ブロックや図を使つたり、「ひくたす」や「ひくひく」をしたりするとよい。</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>乗法と倍の関係           <ul style="list-style-type: none"> <li>㊱ 同じ4倍の違う長さを求めるには、どうすればよいかな。</li> <li>㊳ 1つ分の長さを求めて、かけ算九九で計算するとよい。</li> </ul> </li> </ul>   | 6                       |
| 7                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題作り</li> </ul> <p><b>㊱</b> ひき算の問題を作るには、どうすればよいかな。<br/><b>㊳</b> 「のこり」や「ちがい」のお話を見つけるとよい。</p>   | 単元のまとめ   | 7                       |
| 8                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのある減法のカードを作り、同じ答えのカードを並べて、規則性を見付けていく</li> <li>きまりを見付けるには、どうすればよいかな。</li> <li>引かれる数を揃えるとよい。</li> </ul>  | 次の単元   |                         |
| 9                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な演算適用の文章題</li> <li>既習事項の確かめ</li> </ul> <p><b>㊱</b> 分かりにくい問題は、どうすればよいかな。<br/><b>㊳</b> 図やブロックを使って考えるとよい。</p>  |  |                         |
| 10                | 単元のまとめ   |  |                         |

5 本時 (第1学年: 4/10, 第2学年: 4/7)

(1) 目標

(第1学年)

- ◎ 繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、具体物や言葉、式、図を用いて表現したりすることができる。

(2) 指導に当たって

同時導入で授業を展開し、つかむ・見通す段階では、ガイドを中心に学習問題からめあてを導き出し、主体的に問題解決に取り組んでいこうとする雰囲気を大切にしたい。調べる・練り上げる段階では、ガイドを中心に話し合せ、共通点を探していく活動を行い、まとめへとつなげる。まとめ・振り返りの段階では、共通点や大切な言葉を基に、教師の支援を受けながら、自分たちでまとめができるようにしたい。また、練習問題に取り組ませ、学習の定着を図る。さらに、異学年の交流を図り、本時にどのように学ぶようになったのか、どのように考えが変容したのかを子供に実感させ、次の学習につなげられるようにしたい。

(3) 実際

| 指導上の留意点  | 主な学習活動 (第1学年)  | 過程        | 位置/時間   | 過程        | 主な学習活動 (第2学年)   | 指導上の留意点  |  |
|--|--|-----------|---------|-----------|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって主体的に問題解決に取り組むことができるよう、共通のテーマを確認したり、前時までの学習内容を確認したりする。</li> <li>本時のめあてを引き出すができるよう、前時までの10を作る方法などから、「気付いたこと(今までと違うこと)」に着目できる問題を設定する。</li> <li>自力解決につながるように、答えの予想では「4から6は引けないから、10よりは小さい」など、概算ができるようにする。</li> <li>本時の課題解決につなげていけるように、「方法の予想」では、10を作ったり、図やブロック、「ひくたす」「ひくひく」を使ったりするなど、具体的な考え方の予想ができるようにカードを活用する。また学習に使うツールを選択させ、多様な考え方ができるようにする。</li> </ul> | <p>1 学年別学習課題を確認する。</p> <p>2 前時の復習をする。</p> <p>3 学習問題を確認する。</p> <p>竹とんぼが14本あります。6本飛ばすと、残りは何本ですか。</p> <p>4 気付いたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式は14-6かな。</li> <li>ばらの4から6は引けないな。</li> </ul> <p>5 本時のめあてを確認する。</p> <p>ばらの4から6を引けないときは、どうすればよいかな。</p> <p>6 問題の答えの予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10より小さい。</li> </ul> <p>7 問題を解決する方法の予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前さくらんぼや後ろさくらんぼで分ける。</li> <li>10を作る。・図やブロックを使う。</li> <li>「ひくたす」や「ひくひく」を使う。</li> </ul> <p>8 自力解決を図る。</p> <p>14を10と4に分けて計算する「ひくたす」を使ったよ。</p> <p>6を4と2に分けて計算する「ひくひく」を使ったよ。</p> <p>9 考えを交流する。</p> <p>「ひくたす」と「ひくひく」どちらでもできるね。</p> <p>10 とばらに分けて計算しているね。</p> <p>10 まとめをする。</p> <p>10を作つて、「ひくたす」や「ひくひく」をすればよい。</p> <p>11 練習問題で確認する。</p> <p>チェック問題: 14-5<br/>発展問題: 11-5, 13-6</p> <p>12 振り返りをする。</p> <p>14-6は、10を作つて、「ひくひく」をすればよいことが分かりました。宇宿つ子フェスティバルでも、すぐに計算できるといいです。</p> |           | つかむ・見通す | ⑩         | <p>1 学年別学習課題を確認する。</p> <p>2 前時の復習をする。</p> <p>3 学習問題を確認する。</p> <p>下の箱に入ったボールの数を求めよう。</p> <p>4 気付いたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すきまがあるね。</li> <li>ボールの数を求めるんだな。</li> </ul> <p>5 本時のめあてを確認する。</p> <p>すきまがあるときのボールの数を求めるには、どうすればよいかな。</p> <p>6 問題の答えの予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>36より少ない。</li> <li>24より大きい。</li> </ul> <p>7 問題を解決する方法の予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>九九が使えるように分ける。</li> <li>あわせる。</li> <li>全部から引く。</li> <li>動かす。</li> </ul> <p>8 自力解決を図る。</p> <p>6の段と3の段に分けて考えたよ。</p> <p>ボールを動かして、6×5で求めたよ。</p> <p>9 考えを交流する。</p> <p>九九が使えるように分けているね。</p> <p>きまりを使つたり、全体から引いたりしているね。</p> <p>10 まとめをする。</p> <p>九九が使えるように分けたり、きまりを使つたり、全体から引いたりすればよい。</p> <p>11 練習問題で確認する。</p> <p>【チェック問題】<br/>●の数</p> <p>【発展問題】①<br/>●の数</p> <p>②</p> <p>12 振り返りをする。</p> <p>ボールの数を求めるには、九九が使えるように分けて動かせばいいことが分かりました。2年生の学習問題も同じようにすれば解けそうだと思いました。</p> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって主体的に問題解決に取り組むことができるよう、単元を通して解決を図る学習課題を確認したり、前時までの学習内容を確認したりする。</li> <li>本時のめあてを引き出すができるよう、前時までの乗法九九が使えるように分ける方法や、かけ算のきまりなどから、「気付いたこと(今までと違うこと)」に着目できるような問題を設定する。</li> <li>自力解決につながるように、答えの予想では「6×6の枠だから36より少ない」など、大まかな答えを出せるようにする。</li> <li>本時の課題解決につなげていけるように、「方法の予想」では、乗法九九が使えるように分けたり、合わせたり、動かしたりするなど、具体的な考え方で予想できるようにカードを活用する。また、学習に使うツールを選択させ、多様な考え方ができるようにする。</li> </ul> |
| <p>評価 繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、具体物や言葉、式、図を用いて表現したりすることができたか。[思]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決や話合いで働かせた数学的な見方・考え方を意識して、教師の助言の下、共通点や大切な言葉から学習のまとめができるようにする。</li> <li>本時の学習の定着が図れるようにチェック問題と発展問題を用意し、自分で選択して練習問題に取り組むことができるようになる。</li> <li>自分の考え方の変容や友達の考え方のよさにも気付くことができるよう、振り返りの中で、「わかったこと・できるようになったこと」「考えが変わったところ」「次に頑張りたいこと」の3つの視点で振り返りをする。</li> </ul>                                |  | 調べる・練り上げる | ⑯       | まとめる・振り返る |   | <p>評価 L字型に並んだボールの数の求め方について、乗法九九を活用して考えることができたか。[思]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>深まりのある話合いとなるように、自分の考え方と同じところや違うところを比べながら聞き、共通点を見付けられるようにする。また、協働的な話合いができるように、必要に応じてガイド学習の手引きを活用せたり、教師がコーディネーターとして状況に応じた助言を行つたりする。</li> <li>自力解決や話合いで働かせた見方・考え方を意識して、共通点や大切な言葉から自分たちでまとめができるようになる。</li> <li>本時の学習の定着が図れるようにチェック問題と発展問題を用意し、自分で選択して練習問題に取り組むことができるようになる。</li> <li>自分の考え方の変容や友達の考え方のよさにも気付くことができるよう、振り返りの中で、「わかったこと・できるようになったこと」「考えが変わったところ」「次に頑張りたいこと」の3つの視点で振り返りをする。</li> </ul> |  |